

センターだより

繋ぐ→支える→発信・リードする教育センター

特別号VI-⑥

平成26(2014)年9月発行

吹田市立教育センター

大阪府吹田市出口町2-1

TEL 06-6388-1455

FAX 06-6337-5412

メール s-educ@suita.ed.jp

『若手教職員に今、伝えたい！ 吹田のスーパーティーチャーの実践・技』⑥

今回の特別号は、吹田市のスーパーティーチャーである指導教諭の先生方の実践紹介です。センターだより特別号における指導教諭特集は平成21年度から始まり、今回で6号目になります。昨年度は小学校3名、中学校1名、今年度は、さらに小学校2名の先生方が新たに指導教諭となりました。今年度は、昨年度から新たに指導教諭になられた6名を加えた小学校15名、中学校9名、計24名の指導教諭の方々が下に挙げた様々な活動で活躍されています。今回は、昨年度から新たに指導教諭になられた6名の先生方を紹介したいと思います。

平成19年6月に学校教育法が改正され、平成20年4月1日からは指導教諭が新たな職として設置できるようになりました。指導教諭は、「教員として自ら授業を受け持つとともに、所属する学校の児童等の実態等を踏まえ、他の教諭等に対して教育指導に関する指導、助言を行う職であり、他の教諭等の授業観察や自らの公開授業の実施等を通じて教諭等の資質能力を向上させること」がその役割です。吹田市では、その役割を踏まえ以下のような場面で活躍いただいています。

《吹田市における指導教諭の活動例》

- ①勤務校及び中学校ブロックにおいて自分自身の授業の積極的な公開
- ②勤務校における公開授業への指導・助言
- ③勤務校及び市内各学校の教員に対する授業改善などの指導
- ④「初任者研修」での示範授業・指導・助言
- ⑤「10年経験者研修」での示範授業・指導・助言
- ⑥「ステップアップ研修」受講者の授業実践に対する指導・助言・示範授業
- ⑦教育センターの研究グループの研究員
- ⑧教育センターの研修の講師
- ⑨若手教職員への指導的役割
- ⑩小学校・中学校においての出張授業、あるいは巡回相談
- ⑪地域の小・中・高校・NPO・各種団体や大学等と連携し支援活動を行う



平成26年度 吹田市の指導教諭

勤務校	名前	教科・領域	勤務校	名前	教科・領域
千里たけみ小学校	江端 悦子	特別支援教育	豊津中学校	山口 正剛	特別支援教育
片山小学校	有森 清美	算数教育	青山台中学校	野本 怜子	道徳教育
青山台小学校	川向 博子	特別支援教育	南千里中学校	神崎 由紀	英語教育
千里第一小学校	福島 太三	体育教育	山田東中学校	吉田 昌司	国際理解教育
吹田南小学校	後藤 明弘	音楽教育	高野台中学校	榎 貴恵	音楽教育
北山田小学校	石丸 弘美	図工教育	竹見台中学校	池田 愛	国際理解教育
千里第二小学校	三木 信次	学級経営	竹見台中学校	平岡 弘子	国語教育
片山小学校	川中 秀夫	体育教育	古江台中学校	永田 和浩	理科教育
山田第一小学校	齊藤 禎	図工教育	竹見台中学校	藤田 幸	英語教育
吹田東小学校	小木 小百合◆	学校保健			
桃山台小学校	有岡 葉子	児童生徒理解			
吹田第六小学校	贄 宏恵◆	学校保健			
豊津第二小学校	瀬崎 浩美◆	学校保健			
津雲台小学校	井上 良太	体育教育			
佐竹台小学校	山本 圭司	特別活動			

※ 指導養護教諭は名前の後に◆



吹田第六小学校 ^{にえ} 贄先生

こんな素敵な先生です！



贄先生は小学生の頃、編み物をしながら話を聞いてくれるような保健室の優しい“おばあちゃん先生”との出会いに、漠然と「学校の先生になりたいな」という思いを抱いたそうです。そして高校生の時に大好きだった担任の先生に「養護教諭を目指してみたら？」とアドバイスをもらい、本格的に養護教諭を目指すことになったそうです。

初任者として赴いた小学校は800人の児童に、養護教諭は自分ひとり。わからないことだらけなのに次々と聞かれ、瞬時に判断を迫られる…その重責に負けそうになったこともあったそうです。そんな時にありがたかったのは先輩の養護教諭の先生方との出会いでした。「こんな失敗をしたのよ。」「あれはうまくいかなかったわ。」とベテランにもかかわらず失敗談を語ってくれたり、こちらの質問にも丁寧な答えてもらったりするなかで、養護教諭として育ててもらったそうです。

今の自分にできることは「経験を形にして後輩に残すこと」ということで、本にまとめておられるそうです。

インタビューの途中でも来室した子どもには人権的な配慮も入れながら丁寧に接しておられ、安心できる保健室づくりをしておられる様子がわかりました。そんな贄先生の元気の秘密は週末のエアロビとヨガ。心も体もリフレッシュできるそうです。

若手教職員に、今、伝えたい！

保健面を一手に担う重圧に押しつぶされそうになった新任の頃、私に力を与えてくれたのは、職場の先生方の細やかな気遣いと、同僚たちの提供してくれる笑い、そして頼りない私に向けられた子どもたちの“信頼のまなざし”でした。「何とかそれに伝えたい！」その思いで突っ走ってきたような気がします。そんな経験からひとこと…
他校の養護教諭と交流しよう！



一人の養護教諭が経験できる事例はたかがしれています。ぜひ、いろいろな学校の先生と顔見知りになって、他校の実情を教えてもらってください。その都度、「自分ならどうする？」と真剣にシミュレーションすることを忘れずに！経験値アップの秘訣です。雑談の中にも大きな学びが隠れていますよ。それに、悩んでいるのは自分だけじゃないと心が軽くなることも…。

自主的な学びの場を作ろう！

気の合う仲間が見つかったら、時間を作って自分たちのニーズに合った勉強会をしてみてください。集まった中には、絵が得意な人、文章表現が巧みな人、発想の豊かな人と様々なはず。お互いの個性を發揮すれば、きっとすてきな共有財産を得ることができると思っていますよ。

津雲台小学校 井上先生

こんな素敵な先生です！



体育を研究することになったきっかけ

それは、ある素敵な先生との出会いにありました。その先生は、O-157の影響で当面水泳指導は中止であるにもかかわらず、いつ再開しても子どもたちが困らないように準備をしたり、運動会に向けてすべきことを言葉だけでなく、実際に一緒に取り組むことで学ばせようとしてくださったりしたそうです。

体育の授業で大切にしていること

普通の体育の授業で井上先生が大切にされていることは、「技能を支える子ども同士の心の通い合い」だそうです。ただ技能を身に付けさせることだけをねらうのであれば、教師が教え込めばいい。そうではなく、子ども同士が互いの学びの経過を分かっている、励まし合い、教え合い、助け合う中でできるようになる喜びを感じてほしい。という思いで日々の授業に臨んでおられるそうです。また、一人でも多くの子どもの笑顔を増やすため、校内の先生方に対しては、実技研修も毎年実施されているそうです。

井上先生のお話を聞かせていただいて、常に子どもを中心に考えておられる温かい心と、子ども同士のつながりの中で、一人でも多くの子どもにできる喜びを味わわせたいという情熱を感じました。

若手教職員に、今、伝えたい！

新任のころ、先輩によく言われたのは、

「体育指導の要諦はその運動を好きにさせてあげられるかどうか」

そのことを実感できたある女の子のエピソードは、まさに自分の体育指導の出発点です。

一生懸命がんばっているけれど、どうしても平泳ぎのキックがあおり足になる彼女。なんとか200m泳げるようになり、臨海も無事に完泳。その彼女が、

「私、中学に行っても水泳部に入るね。」
と言ってくれたのです。私にはそこしか見えていなかった「今の實力」に、彼女は振り回されてなどいなかったのです。そしてこう続けました。

「もっとがんばったら、もっとうまくなるよね！」
なんとか終わってほっとしていただけた私に強く教えてくれたのです。ここがゴールなのではないと…。

やる前から結果を計算し、ほんとにやりたいことよりもできそうなことだけをする子が多い中、自分が「本気」になれるものを追い求める…。好きだからこそがんばれる、もっとやってみようと思える。そんな体育の時間をともにつくっていきましょう！



桃山台小学校 有岡先生

こんな素敵な先生です！



本が大好きだという有岡先生は、毎週のように図書館へ通い、たくさんの本を借りられるそうです。就寝前の読書は日課。小学生のとき、担任の先生が「ビルマの堅琴」を毎日少しずつ読んでくださるのが楽しみでたまらなかつたそうで、子どもたちにも同じように、本の楽しさを感じてほしいと話されていました。

中学校の担任は初任者の国語の先生で、一生懸命向き合ってくれた姿に憧れたことが教師をめざすきっかけとなったそうです。教師として勤め始めた頃は、うまくいかずに涙することや、「なぜできないの。」と子どもに問うこともありましたが、ご自身の子育てを通して考えが変わっていったそうです。それは「できない子の気持ち」に寄り添うということ。有岡先生に大きなヒントを与えた娘さんと息子さんは、どちらも教師という仕事に就いておられるそうです。

大切にしていることを尋ねると、「笑顔かなあ…」とお話しして下さった有岡先生。インタビュー中もずっとニコニコ優しい表情を見せて下さるので、緊張する間もなくつついっししゃべり過ぎてしまったほどでした。とても温かい雰囲気とこの素敵な笑顔に、子どもたちも有岡先生と過ごす時間にとびっきりの居心地のよさと安心感を得ているはず。子どもたち一人ひとりとしっかり向き合い、じっくりつき合っ下さる素敵な先生です！

若手教職員に、今、伝えたい！

一人ひとりに寄り添って！

「なぜ、こんなことをするのだろう。」
「なぜ、これができないのだろう。」
と考えることはありませんか。



その時に欠かせないのが、「この子は何かにつまづいているのではないか。」という視点だと思います。突飛な行動が、実は不安の裏返しということもあります。一人ひとりに寄り添って、どんな言葉かけ、支援をすればいいのか考えるところが第一歩です。みんなが同じことをできなくても、その子なりにやればいいのかではないでしょうか。一人ひとりが大切にされていると感じ、お互いを認め合える集団を育てていきたいですね。

職員室でいっぱい話しましょう！

一生懸命やっているのにうまくいかないことや分からないこともたくさんあるでしょう。そんな時は、職員室でいっぱい話しましょう！

嬉しかったこと、失敗したこと、グチもOK！聞いてもらってホッとしたり、話すことで整理できたり、アドバイスももらえます。助けてもらうこともできます。ひとりでがんばりすぎないでください。まずは、先生自身の不安を解消するところから一緒に始めましょう！

竹見台中学校 藤田先生

こんな素敵な先生です！



授業をすると、より一層キラリと光る先生がいます。藤田先生はそんな先生です。何度も研究授業を拝見して感心するのが、子どもたちが授業後に「もう終わり?!」「まだやろうよ~!」「ああ、楽しかった!」と毎回言うのです。言われたのではなく、自然にこぼれる言葉は説得力があります。

藤田先生は、もともとは歴史が好きで、大学は史学科で入学したのだそうです。その後、1回生で転科して英米文学科へ。英語との出会いは早く、小学校のときに通った小さな英会話サークルでした。おばあちゃん先生が、外国の人と対等に話す姿を見て「かっこいい!」と思ったそうです。そんな藤田先生にずばり、聞いてみました。

英語をしゃべれるようになる秘訣はなんでしょう？

「努力。語彙を増やすこと」うう、そうですね…。

「自分でものを考えること」えっ?!

「普段から考えることをしていなかったら、対話はできません。コミュニケーションは自分の意見や考えを伝えること」

挨拶だけでできて対話にはならない。どうすれば本当の意味で子どもたちが英語を話せるようになるのか、藤田先生はいつも考えています。これでいいと思わない姿勢が、子どもたちのあつぷやきにつながるんだな、とお話を聞きながら思いました。

若手教職員に、今、伝えたい！

「もっと勉強しておけばよかった。」生徒たちからよく聞く言葉です。そして、大人の多くも多かれ少なかれそう思っています。私も大いにそう思うひとりです。ここでいう勉強とは、いわゆる机に向かって行う学習だけではなく、社会貢献、趣味、特技、極端に言えば遊びまでも含む経験のことです。教員の仕事は生徒や保護者、あるいは同僚の前で語る場面の連続です。そのとき、自分の経験に基づいた言葉と、ただ知識として持っているだけの言葉ではどちらが聞いている人の胸に迫るでしょうか。答えは明らかです。だから、エネルギー溢れる若い時代に様々な経験をしてみてください！無駄になる経験などないのです。ときには、自分の関心の薄いことにも挑戦してください。自分はこういう人間なのだと型にはめずに、殻に閉じこもらずに様々なことに目を向けてみてください。そうして人間の幅を広げてください。そうすれば、おのずと仕事にも幅と厚みが出てくるはず。教員の仕事に「満足」はなかなかありません。日々、反省と改善の繰り返しです。だからこそ学び続けたいと私もそう思っています。



豊津第二小学校 瀬崎先生



こんな素敵な先生です！



瀬崎先生は、とても頼りになる保健室の先生です。中学校で一緒させていただいた時のクラブ活動（テニス部）でも熱心に指導されていた姿が印象に残っています。学校行事でも会場準備や後片付けから生徒のフォローまで、いつも皆が気づかないところに心配りをしている、陰で支えてくださる安心感は生徒だけでなく、教職員の支えになっていました。

今は小学校でご活躍されている瀬崎先生ですが、もともと医療関係の勉強をされていて、ご自分もスポーツをしていたので、スポーツトレーナーの仕事に興味を持たれたそうです。子どもが好きだったこともあり、「学校」で子どもたちのために専門の知識を活かしたお仕事を、と思い養護教諭になられたそうです。最初の学校で先輩の先生から教わった「何でもメモをとる！」を今でも実践されており、保健行事のみならず、学校のいろいろな行事に関しても、流れや準備について、また反省などを書いたものを1年後に見ながら、年々良い方法を模索されているそうです。もちろん毎日の生徒の登校状況を把握し、必要な対応を考え、先生方にお知らせするような実践も積み重ねられています。わかっていてもなかなかできない「小さなことに手を抜かない」実践の積み重ねが、今の瀬崎先生のパワーになっていることをインタビューしながら感じました。

若手教職員に、今、伝えたい！

協力できる養護教諭でいきましょう！

何事にも協力してもらうことの多い養護教諭です。頼れる先輩、手を貸してくれる同輩を持つことも大切です。でも、こちらからも積極的に何事にも手を貸していきましょう。行事等の参加だけでなく、校内の整理・整頓や気づかない部分のお仕事など、進んでやりませんか。広い視野で学校全体を見ていきたいですね。



頼りになる養護教諭でいきましょう！

健康面での専門家として、一人で判断し対応する場面もあるでしょう。でも、悩んだときは、必ず仲間も呼びましょう。複数で対応し判断することで、より適切な指示ができることもあります。心の中でドキドキしたり、情けないと思っても顔に出さず、しっかりと指示ができる頼れる養護教諭、どうでしょうか。

佐竹台小学校 山本先生



こんな素敵な先生です！



山本先生は初め、中学校社会科の教諭として着任され、14年間、野球部の顧問として一所懸命に部活動にも取組まれました。その後、以前から興味を持たれていた小学校に転勤され、今年で15年目を迎えられています。

インタビューでは、生徒会や児童会・学級会の活動を中心にお話いただきました。中学校で生徒会を担当されていた時には、生徒会選挙の取組を通して、子どもたちが学校という「社会のミニチュア版」で、社会に出る準備をしていると実感されたそうです。また、小学校の学級会の活動では、みんな遊びや学校行事等をより良くするために子どもたちが話し合いを重ねます。その中でお互いを理解し、リーダー性が育まれ、行事を終えることでみんなに達成感が生まれる。特別活動では日頃の授業では見ることができない、子どもたちの新しい一面を発見することができることから、

「特別活動とは、子どもたちの才能を切り拓く活動」

であると教えていただきました。

取材を通して、子どもたちのことについて話されているときの山本先生の笑顔がとても優しく、いきいきとされていることが印象的でした。さらに体を動かすことが大好きな山本先生は、休日にはハイキングや野菜の栽培、そして、中学校教諭時代から続けておられるクワガタの世話などに積極的に取組まれるとてもアクティブな先生です。

若手教職員に、今、伝えたい！

僕が新任として赴任した中学校で先輩の先生が全校集会で生徒達にこんな話をされました。「先生が高校生やったとき、いつも学校の周りや校門の辺りを、ゴミ拾いしてる年とった先生がいてん。毎朝、背中丸めて、下に落ちてる吸い殻とか紙くず、牛乳パックとか拾ってんねん。そんな先生を見て、僕はいつも馬鹿にしててん。でもな、今、すごくその先生の気持ちが分かんねん。その先生、学校のことすごく好きやったんやなあって。好きやから、そんな悪口言われても、ゴミ拾いとくしててんやなあって。だから、みんなも、自分の学校大切にしよう。良い学校にしてや。」その先輩先生の話がとてもうまくて、心に響きました。そして、今でもみんなのためにできることはないかなとか思いながら動いています。若い先生は、先輩先生について、いろんな仕事を一緒にして欲しいと思います。体動かして、たくさん仕事を覚えて下さい。

それと、子どもとできるだけ長い時間一緒にいてほしいと思います。一緒に遊んで、勉強して、話して。それだけで子どもとの距離が近くなって、お互いに安心感が持てると思います。そんな中で見つけた、子どもの良いところを、保護者に教えてあげてください。連絡帳でも電話でも良い、保護者との距離も近くなると思います。

できることから少しずつ。

